

三 蛋白石 (オパール)

讃岐には、ところどころに、蛋白石という瑪瑙質めのうの特種な鉱物が出土する。蛋白石＝オパールといえ、誰もが、高価な宝石を思い出すであろう。

しかし、宝石として珍重されるオパールは、実に稀有なもので、今もって、日本全国、どこにも見つからない。

ただ一ヶ所福島県の宝坂という所から産するが、それも質の悪いもので、すべて宝石になるオパールは外国（主としてオーストラリア）から輸入するのが現状である。

鉱物学的には蛋白石はみな同一の成分でありながら、その色調に変彩現象を起す、ごく例外的なものが稀に出てくる、それを特に貴蛋白石として尊重する。これが世に宝石となるいわゆるオパールなのである。

成分としては同じ石英でありながら、結晶した美しい姿のものが水晶として尊重されるし、同じザクロ石でありながら多くのものは研磨用の金剛砂となり、その色調の美しさで宝石となるガーネット（ザクロ石）は稀れであるのと同様である。

さて、宝石にはならないが、讃岐路に蛋白石（オパール）が出るが、それはどんなところであろう。香川県地質概説によると、次のように産地や産状を記載している。

「主として凝灰岩、集塊岩中に塊状となつて産する、五剣山、香川郡堂山、綾歌郡の横山、三豊都の七宝山、伊吹島の安山岩中の裂目を充填したものを産する」とある。

蛋白石というのは、ガラス質の珪酸つまり石英質のものなのだが、成分上から見ると石英より水分が多く含まれ、割れ易く、その割口は貝殻状になる性質があり、硬度も石英より軟かいので、ごく大塊のものは稀れで、岩屑や石礫のような塊状

となつて見つかる。

また、この石は、鉱物学上、熱水鉱物に属していて、その成因は、次のように説明せられている。「石英のような珪酸はアルカリ性の溶液には容易にとける。その熱水でとけてニカワ状になつた溶液が岩石その他の割目や空隙にはいり込み、それが水分を失なつて固結し、天然ガラスのようになったもの」

従つて、蛋白石は、岩の割目、土中の隙間に産出する。時にはたおれた樹木などにも滲み込み、特種な珪化木（木蛋白石）などをもつくつている。

もう十年も前のことである。私は坂出の角山（富士型円頂丘の山）で、この蛋白石を見つけ、その出土状態などを私見ながら、実地に調べたことがある。

いうまでもない讃岐平野にある山々は、みな花崗岩の基盤―それを貫いた第三紀の噴出岩である安山岩、その他の火山岩或は凝灰岩、集塊岩がのつている。

角山は凡そ、その八合目あたりまで、花崗岩、その上にサヌキ式安山岩となる。その八合目の花崗岩から安山岩の接触地帯から出土する。

この山には山頂に祠があり、その参道の工事の為か道幅を拡げて掘り返した土の中から、その破片を見つけたのが、最初の発見である。その後その周辺を探索すると、かなり粘土質になった風化土壌の中から塊状の岩礫となつて、ゴロゴロと出てくる。蛋白石のある周辺の土壌に鍬先でもあたると硝子に当たつたようなひびきがして、すぐにそれとわかつた。

中には安山岩の岩に附着するような形で、岩間にはさまれて出てくるものもある。半透明の白乳色や黄青味がかつたものなど石の外側は風化変質して灰白色、腐蝕面をあらわすもの、形も鐘乳状になつたものなど、様々の形のもので出る。

私はこの角山で採集したものの一部を、当時、九大の理学部の学生だつた息子の手を経て大学の研究室にとどけて置いた。別に鑑定を依頼するためではなかつた。「これは質の悪い瑪瑙質の鉱物じゃ……」

香川県あたりの花崗岩を貫く安山岩―その接触地帯などに往々瑪瑙質の鉱物が分布しているとは聞いていたが……と先生は、この石を見て、うなづいていた……

と、ともかく子供からの報告があつた。

ことわつておくが、蛋白石は瑪瑙と全く同じような成分と成因をもっており、また、その産出状態も同じものである。ただ宝石の瑪瑙となると、ニカワ状の珪酸の溶液が、つぎつぎに、同一のところに流れ込んで縞模様には堆積固結したものであつて、蛋白石や玉髓等とは同じ仲間の鉱物であるから、瑪瑙、玉髓、蛋白石の三つは、瑪瑙質鉱物と呼んでいいわけである。

ともかく、私の採集した角山の蛋白石を、九大では悪質の瑪瑙と鑑定したのは事実であつた。

その後、間もない時である。女生徒（坂商）の一人が、授業の終わった時、「先生、私のうちで、山にブルを入れて、畑を造成していると、珍らしい石が、ブルにかかつて、ゴロゴロといくらでも出てくる。見るとその石は艶があつて光る。父は、それを見て、てつきり、宝石だ、玉になる石だと驚いたから、早速、その山を立入禁止にした。たくさん出たので、親戚の人や近所の人にも分けてあげたが、

みなよろこんで飾石にしている。先生にも持って来て見てもらったらと思うが、重いので持ってこられない。小さいのを持って来ますから見てください：」こんなことを知らせてくれた。

その時、これはてつきり蛋白石だなア：と思つて、その女生徒にも話をして置いた。翌日持参した小片を見ると案の通り、角山から出るのと同じ蛋白石であつた。

一応、その生徒にお礼をいって、その石の性質や産出状態などを説明すると、自分の山から出た実地の産状を見ているだけに、その生徒は「先生、その通りです：」と一つ一つ私の話にうなづいて合口を打つてくれたのも、私が、角山で実地の産状を調べていたせいであつた。

「そのあなたのうちの山畑、：それはどこの山：」とたずねると、「横山」だという。綾歌郡の横山と前記の引用書に記載されている山であつた。

また、その頃、鎌田の博物館に出かけると、館長（西山氏）の机上に近い所に蛋白石が置かれてあるので、「この石はどこから：」とたずねて見た。すると館

長は、「これは私の家の近くの堤山から出た石です。寄贈されて、ここに置いてあるのですが、何という石でしょうか？」と、問い返された。

そういうことで、堤山（栗熊）にも蛋白石の出ることを知ったのである。

堤山―これも坂出の角山と同様、円頂丘の山で外観を知るばかりで、登ったこととはない。今の綾歌郡栗熊―久万玉村と古名の隈玉を、つい最近まで呼んでいたところである。

私は、この隈玉くまたまの地名も、或は、堤山から、瑪瑙質のこの蛋白石を産出し、それを飾玉にしていたところから出た呼称ではあるまいか…そう憶測までさせられてならないのである。

その他、この種の石を時々、知人などが持っているのを知っている。

こうして見ると、讃岐には、この種の石、蛋白石は、かなり方々に分布していることがわかるのである。